

第31回岡山・鳥取県経済同友会合同懇談会

- 1 日時 令和6年10月8日（火）13：30～
- 2 場所 視 察：サントリー天然水奥大山ブナの森工場
懇談会：エバーランド奥大山
懇親会：休暇村奥大山
- 3 出席者 岡山経済同友会 15名
神戸経済同友会 4名
鳥取県経済同友会 25名
- 4 視 察

懇談会に先立って、サントリー天然水奥大山ブナの森工場を視察させていただきました。

案内係の方から、奥大山地域に降った雨や雪は、地中へゆっくりと浸透し約20年かけて天然に濾過される。それをくみ上げ製品にしていること、水を入れるペットボトルもこの工場で作っていること、品質管理の徹底や厳しい検査体制のことなどの説明がありました。

また、水を守ることにつながる森林整備活動を水源涵養事業として全国展開されています。

最後に、冬場に工場周辺に積もった雪を貯蔵する「雪室（ゆきむろ）」へ案内いただきました。雪の冷気を工場の機械の冷却に使うとのことで、省エネルギーの取り組みの一環です。

大企業の経営方針等が垣間見えて、有意義な視察でした。

5 懇談会

懇談会の開会にあたって地元の鳥取県経済同友会の細田代表幹事が挨拶及び活動状況報告を行いました。続いて、岡山経済同友会の梶谷代表幹事、神戸経済同友会の神原代表幹事がそれぞれ挨拶及び活動状況報告を行いました。

なお、本合同懇談会に神戸経済同友会が参加されているのは、江戸時代初期の岡山藩、姫路藩、鳥取藩の藩主がいずれも池田家で、姻戚関係にあった縁によるものです。

第1部の講演会では、地元江府町の白石町長の挨拶に続いて、江府町職員で地域プロジェクトマネージャーの光島宏美氏から「奥大山自然塾を通じた環境教育の取組」を演題として、講演と現地案内がありました。

光島氏は岡山市出身で、青年海外協力隊の一員としてマレーシアボルネオ島に派遣され



【天然水製造工場を視察】

ジャングルで生活した経験や岡山県新庄村で自給自足生活の経験があります。現在は、大山の自然の中で体験的に地球の歴史や地球環境の大切さについて、教える活動をされています。

同友会の参加メンバーは、緑の教室を体験しました。緑の教室は、奥大山の自然の中で木や水に触れることにより「森の役割」、「人と森の関係」を自分の五感で感じ、自然の中で「生かされている」ことを実感しようとするものです。

参加メンバーの服装はスーツで、自然と mismatch でしたが、経験豊富な光島氏の話に誘導されるように、森の中へ入って行きました。

平日にも関わらず私たち以外に、緑の教室を体験する数団体に出会いました。大山自然塾は江府町の観光振興に一役買っていると感じました。

第2部の講演会では、鳥取県経済同友会会員の天籟株式会社代表取締役医師の桐村里紗氏が、「ネイチャーポジティブとプラネタリーヘルス」と題して講演されました。

プラネタリーヘルスとは、地球規模の健康のことで、人が健康であり続けるためには、人を取り巻く環境が健康でなければならぬ。地球の環境を良くしていくことで、人の健康を実現させようとするものです。

天籟株式会社は、2022年に江府町とプラネタリーヘルス推進に関する連携協定を締結され、町の遊休施設を拠点に学びと実践に取り組まれています。

プラネタリーヘルス社会構築のためには、行政、企業、農業、文化芸術、医療福祉などのあらゆる分野の連携が不可欠であり、企業が押さえるべき要素として、自然資本への負荷の回避・低減、相対的な負荷の低減に向けた一歩ずつの取組、ネイチャーポジティブに資する製品・サービスを市場に提供などがあげられます。

とてもスケールの大きな話で戸惑っている会員もおられました。まずはプラネタリーヘルスの意識を持つことから始めることが重要とのことでした。



【光島氏の説明】



【講演する桐村氏】

6 懇親会

懇親会は鳥取県経済同友会の米原代表幹事が開会の挨拶をされました。

懇親会は、とても賑やかに和気あいあいと進行しました。

懇親会終了にあたって挨拶された次会開催地の岡山経済同友会の中島代表幹事は、挨拶の中で岡山県経済同友会は、現在、南の隣県香川経済同友会、西の広島経済同友会、北の鳥取県経済同友会と交流している。神戸経済同友会と交流できれば、東西南北と交流することになる旨、発言されました。

おもしろい発想と交流拡大の期待に、会場は大いに盛り上がりました。

懇親会の最後に、鳥取県経済同友会の福井副代表幹事の一本締めで閉会となりました。



【米原代表幹事の挨拶】